



オカヤドカリの災難

- オカヤドカリの放幼 -

今年も調査でサンゴの産卵をたくさん観察しました。サンゴが産卵するのは、みなさんも知っているとおり、ほとんどが夜です。そのため夜な夜な海に行くのですが、先日マジャノハマの前に着くとコツコツと音がしていました。それも一つだけでなく、いくつも重なり合うように暗闇の中から音が聞こえるのです。不思議に思ってライトで照らしてみると、オカヤドカリでした。何十個体ものオカヤドカリが、そろそろ道路を歩いていたのです。砂浜ならば音はしないのでしょうか、マジャノハマはアスファルトとコンクリートなので、背負った貝がらが当たってコツコツと音を立てていたのです。

阿嘉島にはたくさんのオカヤドカリがすんでいて、夜海岸などにエサを探して集まってくることはありますが、これだけたくさんのオカヤドカリが集まることは、あまりないでしょう。いったい何を

しているのでしょうか。だいぶ前に「アムスルだより (No. 14)」で少しだけ紹介したのですが、実はこのオカヤドカリたちは、子ども (幼生) を海に放ちに来たのです。ふだんは陸で暮らしているオカヤドカリですが、ふ化してしばらくは海の中を漂って生活しなければなりません。それで親たちは貝がらの中の卵がふ化するころになると海岸におりてきて、海の中に放つのです。幼生は海で育ったあと陸に上がって貝がらを背負って暮らすようになります。同じように、オカガニ (写真1) やヤシガニもふだんは陸にすんでいます。幼生を放つために海にやってきます。

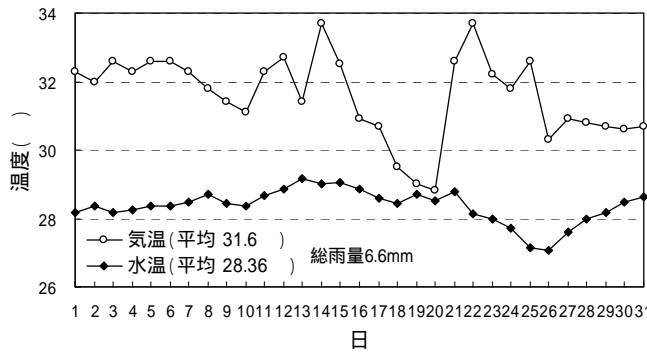
きちんと調べた訳ではありませんが、サン



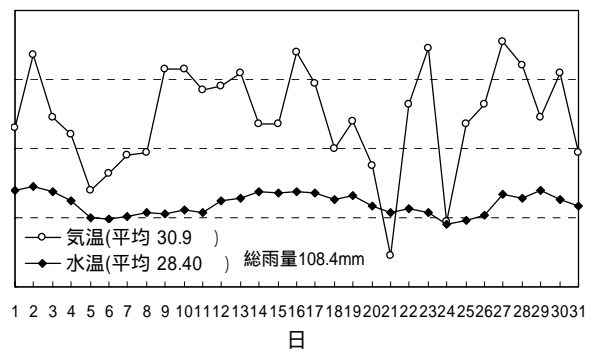
ゴの産卵調査に行ったときの事を思い出すと、オカヤドカリは、おおよそ6月から9月に幼生を放っているようです。最も多かったのは7月で、そこを歩くときにはオカヤドカリをふまないようにするのにひと苦労でした。そして、ひと月の中では大潮の時期、特に満月の頃が繁殖のピークの様です。サンゴを始めとして、海にかかわる動物の中には、大潮のあたりで産卵したり幼生を放ったりするものがたくさんいますが、どうしてなのでしょう。今のところ、それは、大潮の大きな満ち引きを利用して、より広い範囲に自分の子どもを分散させるためだ

定点観測

2005年7月



2005年8月



と考えられています。オカヤドカリたちは、そうした知恵を使って、より多くの子孫を残そうと努力しているのでしょう。

ところが、今マジノハマのオカヤドカリは大変です。なぜかという、浜の半分が工事で道になってしまったため、山から下りてきたオカヤドカリは、段差を乗り越え、道路を横切り、コンクリートの防波堤の向こう側に行かなければならないからです。人にとってはたいしたことのない段差でも、小さなオカヤドカリには大変です。ふたのない側溝^{そっこう}などは、まるで崖のようなものです。また、道路では、ひかれて死んでしまったオカヤドカリを何度も目にしました。そして、防波堤です。何個体かは、よじ登って乗り越えています。多くのオカヤドカリは壁沿いを行列を作って歩いています。やがて階段に行きつくとようやく海に向かうことができます。無事に海で幼生を放ったオカヤドカリですが、今度は帰り道です。もう一度、同じ道のりを逆にたどらなければなりません。マジノハマの階段は海に向かって出っばっているの、来るときには壁に沿って歩けば、わりとスムーズに下りられるのですが、帰りに壁を伝っているとその出っばりにぶつかってしまうので一度遠回りをしなければなりません。オカヤドカリはこれが苦手らしく、その出っばりの角にたくさん集まってしまっていました。ようやく階段にたどりついて、帰りは階段を登らなければなりません。こうした障害を乗り

こえて、いったいどのくらいのオカヤドカリたちが、無事に帰れるのでしょうか。

親ですらこうですから、ましてや子どもヤドカリはどうでしょう。まだ、いつ子どもが海から帰ってくるのか詳しくはわかっていないようですが、だいたい海に放たれてから50日後くらいだと考えられています。大きさは5mmくらいでしょう。このとても小さなヤドカリの子どもたちは、ちゃんと山までたどりついていのでしょうか。なんだか、そう考えると、暗闇から聞こえるコツコツというオカヤドカリの貝がらの音が、「たいへんだ、たいへんだ」と言っているように聞こえてきました。

阿嘉島の海より

今、阿嘉小学校では水槽でサンゴの飼育に挑戦しています。

夏の夜に産まれたサンゴの卵は二日ほどでプラヌラという幼生になり、やがて自分で岩などにくっついて1mmくらいのポリプになります。このポリプのついてるタイルを、子供たちが各自の名札を付けて、水槽に入れているのです。うまくいけば徐々にポリプが増え、少しずつ大きなサンゴに育っていくはずですが、サンゴの赤ちゃん、元気に育ってくれるといいですね。

